

事例勉強会の報告と今後の流れ

令和4年度試行的に実施した事例勉強会について、以下のとおり報告する。今回の事例勉強会では実際に区が対応した事例を題材にし、検討のポイントに対し意見を交わすことで、権利擁護部会員間で適切な対応について検討及び情報の共有を図った。

1 実施日等

開催日：令和4年7月13日(水)

参加者数：10名

2 事例検討事項(2件)

※個人情報保護の観点から、事例の詳細は省略

事例 タイトル	行動障がいのある障がい者を親が自宅で拘束した事例
問題 (課題)	当事者の問題行動(他害等)に家族が対応しきれず、拘束に繋がってしまった。
検討 ポイント	・在宅での虐待リスクが継続している状態のため、新たな支援策を探る。
参加者の 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の支援者の力をもう少し借りて、親の介助時間を減らしていった方がよいのではないか。 ・親以外の人と過ごす時間を増やしていくことで、家は帰る場所、安心する場所という認識を持たせることが重要。 ・家族が関われる内に、自立させないと戻り場所がなくなるときに大変。 ・金銭的なところで、本人の年金は本人に使わせるようにしてほしい。家族がお金を管理していると後からとても大変。 ・強度行動障がい者に対する、専門職の研修を行っていくことで行動障がいの問題行動に対してしっかりと対応できるのではないか。

事例 タイトル	グループホームに入居している知的障がい者に対する親からの金銭(障がい年金)搾取
問題 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者は親からのお金の貸し借りに関して、判断が困難なため、結果として、断ることができない。 ・家族が同居を求めている。
検討 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のお金(年金)を守る手段について ・今後、家族との同居に応じるかどうか
参加者の 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームでお金を管理しているということに問題があり、今回はグループホームに預けていたことで金銭搾取が発覚したが、反対の場合もある。 ・支援方法の中で長期的な目標と短期的な目標を立てることで、これからの

	<p>将来を見据えることができると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会で実施している金銭管理サービスの利用が可能なケース。 ・サービスを提供していく過程で、お金の管理と福祉サービスはしっかりと分けるべき。 <p>グループホームに限らず、一人暮らしも含め、いろいろなことにチャレンジしていくことが大事。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金を返してもらうということも大切だが、今後自立に向けてお金の管理の仕方を考えていくべき。
--	--

3 参加者の感想

- 強度行動障がい者に対する専門的な支援が足りていないという課題を解決するために部会で話し合うことや、経済的虐待の一因として、社会福祉協議会の事業の周知が足りていないとなれば部会で周知していくなど、権利擁護部会に繋げていけるといい。
- 被虐待者の当事者だけでなく、保護者への手厚い支援がもっと必要だと思った。
- 成長のための必要なコミュニケーションを得られなかった障がい当事者に「大人」としての自分の尊厳をどう取り戻してもらうかが課題であると思った。
- 行政という枠組みの中では、支援の形もその枠に添ったものでないと難しいと感じた。
- PCAGIP（ピカジップ）という手法を取りいれても良いと思う。
※PCAGIP（ピカジップ）とは、グループ全体で問題解決方法の糸口を探す手法。

4 事務局（障がい政策課）の感想

- 各委員から多様な視点で意見を得られたことで、区の対応について広い視点を持つきっかけとなった。
- 事例の部分では、虐待者と被虐待者を引き離すべきなのかというところで、それまでの過程も含めて、支援方法や長期目標を立てて目指していくところは何処か、一歩踏み込んだ支援を考えることが大事だと改めて感じた。
- 勉強会の報告の中で課題として繋いでいけるものは部会に繋げていき、事業所も含め地域での対応力向上のために努めていきたい。

5 今後のスケジュール

開催時期：令和4年12月上旬～中旬

※1時間半程度を予定

検討事例：事務局が用意するが、部会員から寄せられた事例も可とする。

※開催通知文とともに事例の募集を行い、所定の様式により、事務局へ事前提出する。